



心のバリアフリー推進モデル地区における障害理解の推進事業のまとめ

秋田県教育庁特別支援教育課

この事業の目的は、小学校と特別支援学校の交流及び共同学習に関連付けた障害理解授業やPTA研修会等の実施により、小学生やその保護者、地域住民の障害理解を推進することです。

令和5年度、6年度の2年間、大仙地区をモデル地区、大仙市立内小友小学校と県立大曲支援学校をモデル校に指定し、本事業に取り組みました。モデル校には、事業の目的に基づく取組の計画の検討、評価を行うための年2回の連絡会議への参加と事業を推進するための具体的な取組を依頼しています。その取組と成果を紹介します。

モデル地区（大仙地区）の取組と成果

【心のバリアフリー推進モデル校連絡会議】

目的	モデル地区小学校と特別支援学校、教育委員会の担当者が、両校の目指す交流の姿や取組の周知方法について意見交換し、事業の目的に基づく計画を検討・評価する。	
参加者	小学校	大仙市立内小友小学校長
		大仙市立内小友小学校教頭
		大仙市立内小友小学校教諭（交流及び共同学習担当）
	特別支援学校	県立大曲支援学校長
		県立大曲支援学校教頭
		県立大曲支援学校教諭（交流及び共同学習担当）
	市教育委員会	大仙市教育委員会事務局教育指導課 主幹兼指導主事
	県教育庁教育事務所	県教育庁南教育事務所仙北出張所 指導主事

1年目の取組（令和5年度）

1 情報交換（令和5年度第1回心のバリアフリー推進モデル校連絡会議より 令和5年5月18日（木））

【本事業における障害理解を推進するための具体的な取組について】

- ・両校で行っている交流及び共同学習は、特別なことと考えず、学年同士で実施している。
- ・今までの交流及び共同学習はイベント的な内容が多かった。普段の活動を取り入れていきたい。
- ・内小友小学校では、学級会でハローの会（※）の内容を話し合う活動を行うようになってきた。
- ・小学生や保護者の障害理解を推進するために、PTA研修会でボッチャの体験や障害理解授業を行ってはどうか。

※「ハローの会」

内小友小学校と大曲支援学校が行っている学校間交流の名称。

2 主な取組(令和5年度)

○ハローの会(学校間交流)の実施(6月、11月)

- ・1年生は学校探検、2年生は音楽交流、3年生はミニ運動会、4年生はピン倒しボール、5年生は名刺交換とカルタ取り、6年生はコラージュ作りなど、各学年の担任同士が交流内容を事前に話し合い交流を実施



【ボッチャ体験】

○PTA学習参観での取組(内小友小学校)

- ・障害者スポーツ「ボッチャ」の体験(1～3年生)と障害理解授業(4年生)を実施
- ・障害理解授業では、2回目のハローの会で特別支援学校の友だちと もっと仲よくなるための方法を考える授業を実施



【障害理解授業】

3 評価(令和5年度第2回心のバリアフリー推進モデル校連絡会議より 令和6年2月18日(木))

○ハローの会の実施により、両校の児童に変容が表れている。

- ・ハローの会を通して子どもたちには多様性を認める優しい気持ちが育ってきている。



【内小友小学校担任から】

- ・交流を積み重ねてきたことで、児童同士の良好な関係が形成されてきている。特別支援学校の友だちと自然に手をつないでサポートする姿が見られるようになった。

【大曲支援学校担任から】

- ・内小友小学校の友だちのパワーを感じる元気なあいさつや積極的な話し掛け、誘い掛けなど、自校の友だち同士の関わりと違う点に驚く様子もあった。学習を通した同年齢の関わりの中で、徐々に打ち解け自分から話し掛けるなどの姿が見られた。

○障害理解授業の参観により、保護者が交流及び共同学習のよさを感じた。

【障害理解授業を参観した内小友小学校の保護者の声】

- ・特別支援学校の友だちの行動から、どんな支援が必要かを考えて活動していることを感じた。
- ・障害のある友だちのことを、自然に「友だち」と呼んでいることが嬉しかった。来年以降も交流が続くことを期待している。
- ・子どもたちの自然な関わりを見ていると、これまでの交流の成果が表れていると感じる。この関係が中学校でも続くことを願っている。



2年目の取組（令和6年度）

1 情報交換（令和6年度第1回心のバリアフリー推進モデル校連絡会議より 令和6年5月7日（火））

【地区における障害理解を推進するための具体的な取組と取組を周知するための方策について】

- ・保護者にハローの会の参観を呼び掛ける。
- ・児童が学習発表会予行へ参加する。
- ・保護者にハローの会を周知するため、学校からのお知らせの他に事業のことを紹介するリーフレットがあるとよい。
- ・大仙市教職員研修会で内小友小学校長がハローの会の取組を紹介する。
- ・大仙市広報「だいせん日和」にハローの会の紹介記事を載せて地域の方に周知したい。
- ・令和7年度の県南地区の心のバリアフリー研修会を活用し取組の成果発表をしてはどうか。

2 主な取組（令和6年度）

○ハローの会を保護者や地域の方へ公開（6月、11月）

- ・事業について紹介したリーフレットを配付、ハローの会の参観を保護者に呼び掛ける（1回目は18名、2回目は12名が参観）

○学習発表会の予行の参観

- ・内小友小学校、大曲支援学校の3年生の児童が互いの学校の発表会予行を参観

○令和6年度第30回大仙市教職員研究集会で内小友小学校長による取組の紹介

○大仙市広報「だいせん日和」1月号にハローの会の様子を掲載

○令和6年度大仙市PTA連合会第34回研修会で大仙市教育委員会による取組の紹介

○大仙市教育研究所報「けやき」に取組の紹介文を掲載



【ハローの会11月 1年生】



【ハローの会11月 3年生】

3 評価（令和6年度第2回心のバリアフリー推進モデル校連絡会議より 令和7年2月25日（火））

○学習発表会予行の参観で児童が学習活動の様子を見合い、お互いを知る機会となった。

- ・内小友小学校の児童にとっては、特別支援学校の予行を参観することで、友だちの頑張りを発見するよい機会になった。
- ・大曲支援学校の児童にとっては、友だちの頑張りを見るとともに、小学校の学習発表会の雰囲気を感じ取る機会になった。

○研究集会や研修会、地域の広報記事により、学校関係者やPTA、地域の方に内小友小学校と大曲支援学校の交流及び共同学習について周知できた。

- ・市教育委員会では、大仙地区の教職員や地域の方に交流及び共同学習の意義や目的、ハローの会の様子について発信した。
- ・近隣に特別支援学校がないなどの理由から、全ての小・中学校が特別支援学校と交流することは難しい。特別支援学級は、ほとんどの学校にある。通常の学級と特別支援学級の交流が充実することで、互いのことを理解し合い、豊かな心を育む機会になることを学校へ伝えていく。

○ハローの会の公開により、保護者が交流及び共同学習の意義を実感する機会となった。

- ・児童が主体的に関わる様子や、自然に関わる様子を見てもらう機会になった。
- ・手を差し伸べる、誘い合って活動する、顔をのぞき込むようにして話すなどの関わりが双方の児童に見られた。保護者はその様子を参観し、これまでの交流の成果と交流の意義を実感したようだ。

【内小友小学校保護者の感想】

- ・これまでの交流の経験から、自然に思いやったり、どうしたら伝わるかを考えたりすることができるようになっていてのを感じ、感激しました。誰にでも分かるように、誰にでも優しくの気持ちをこれからももち続けてほしいと思います。（1年生、5年生保護者）
- ・子どもたちは障害のあるなしの壁は関係なく、そういった部分を個性の一つとして捉えているように感じました。「今日は内小に〇〇ちゃん来るんだ」と楽しそうに待っている様子に感心と安心しました。また、親同士も交流ができたので、実際の生の声を聞けて、とても貴重だったと思います。（5年生保護者）

【大曲支援学校保護者の感想】

- ・内小友小の子たちとの触れ合いが親の心にも響きました。また内小友小の子どもたちの優しさがありがたく、その様子を見て触れることのできる幸せを噛み締めています。すばらしい機会をありがとうございます。（3年生保護者）
- ・とても和やかな雰囲気、内小のお友だちが自然にフォローしてくれているのを見て、とてもうれしくなりました。実際に会って、交流するということは、とても大切なことだなと感じました。（6年生保護者）



〈事業の成果とまとめ〉

大仙地区では、本事業の取組により、児童、保護者、教職員、地域の方の障害理解を推進する様々な機会をつくりました。紹介した取組の他にも、令和6年度は中学校学区の小学校児童（内小友小学校、大川西根小学校）と中学校生徒（大曲西中学校）と特別支援学校中部の生徒が、中学校を会場に交流を行うなど、新たな交流機会をつくることができました。

また両校は、事業を機にハローの会を見直すことにも取り組みました。児童が主体となった交流活動の実施、両校の児童の実態を考慮した内容の計画、教科に関わる交流内容の検討、交流実施後の評価など、担任同士の話し合いを大事にしています。綿密な話し合いによる効果は、児童一人一人の様子に表れています。地域の障害理解推進に係る取組により、両校の交流及び共同学習がより充実したこと、その交流及び共同学習を公開することで保護者が取組のよさを感じたことが主な成果として挙げられます。

これらの取組を今後も継続することで、児童、保護者、地域の方など、地域全体に障害理解が広がっていくことが期待されます。今後は、研修等の機会に本事業の取組や成果について紹介するなど、県南地区全体の障害理解を推進していきます。また、本事業は、次年度から他地区で展開します。大仙地区での取組と成果を参考にしていきたいと考えています。